

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

令和6年4月18日に小学校6年生と中学校3年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査の結果を報告します。

報告内容

- 1 調査の実施状況
- 2 教科に関する調査の結果
 - ・小学校国語、算数
 - ・中学校国語、数学
- 3 質問紙調査（生活や経験について）の結果
- 4 教科に関する調査の結果と質問紙調査の結果との関係から
- 5 結果をもとにした今後の取り組み

1 調査の実施状況

調査実施日	令和6年4月18日
調査内容	教科に対する調査【小学校】国語、算数 【中学校】国語、数学 質問紙調査【小学校】【中学校】
調査対象	小学校21校6年、中学校8校3年
調査状況	小学校 国語1, 846名、算数1, 845名 中学校 国語1, 707名、数学1, 706名

2 教科に関する調査の結果

各教科それぞれの領域について、全国の平均正答率と比較をし、

「◎：たいへんよくできている」

「○：よくできている」

「□：おおむねできている」

「△：やや劣っている」

「▲：努力を要する」の5段階で示した。(以下の例参照)

(例)	教科の総合判定	
A教科 「○ よくできている」		
学習指導要領の内容	B 書くこと	□
評価の観点	知識及び技能	○

この場合、A教科において、総合判定では全国比で「○ よくできている」という結果であると示している。また、「B 書くこと」に関しては、全国比で□「おおむねできている」。「知識及び技能」については、全国比で○「よくできている」という結果であると示している。

<小学校6年生（教科に関する調査結果）>

国語全体 おおむねできている

分類		区分	結果
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	<input type="checkbox"/>
		(2) 情報の扱い方に関する事項	<input type="checkbox"/>
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	<input type="checkbox"/>
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	<input type="checkbox"/>
		B 書くこと	<input type="checkbox"/>
C 読むこと		<input type="checkbox"/>	
評価の観点		知識・技能	<input type="checkbox"/>
		思考・判断・表現	<input type="checkbox"/>
問題形式		選択式	<input type="checkbox"/>
		短答式	<input type="checkbox"/>
		記述式	<input type="checkbox"/>

問題番号	出題の趣旨	結果
1一	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる	<input type="checkbox"/>
1三	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる	<input type="checkbox"/>
2二	目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	<input type="checkbox"/>
3一	文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる	<input checked="" type="checkbox"/>
3三	人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる	<input checked="" type="checkbox"/>

算数全体 おおむねできている

分類		区分	結果
学習指導要領の領域		A 数と計算	<input type="checkbox"/>
		B 図形	<input type="checkbox"/>
		C 変化と関係	<input type="checkbox"/>
		D データの活用	<input type="checkbox"/>
評価の観点		知識・技能	<input type="checkbox"/>
		思考・判断・表現	<input type="checkbox"/>
問題形式		選択式	<input type="checkbox"/>
		短答式	<input type="checkbox"/>
		記述式	<input type="checkbox"/>

問題番号	出題の趣旨	結果
2(1)	計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	<input type="checkbox"/>
3(1)	直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる	<input type="checkbox"/>
3(2)	直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる	<input type="checkbox"/>
4(1)	除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる	<input checked="" type="checkbox"/>
4(4)	速さの意味について理解しているかどうかをみる	<input type="checkbox"/>

<中学校3年生（教科に関する調査結果）>

国語全体 おおむねできている

分類		区分	結果
学習指導 要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	<input type="checkbox"/>
		(2) 情報の扱い方に関する事項	<input type="checkbox"/>
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	<input type="checkbox"/>
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	<input type="checkbox"/>
		B 書くこと	<input type="checkbox"/>
C 読むこと		<input type="checkbox"/>	
評価の観点		知識・技能	<input type="checkbox"/>
		思考・判断・表現	<input type="checkbox"/>
問題形式		選択式	<input type="checkbox"/>
		短答式	<input type="checkbox"/>
		記述式	<input type="checkbox"/>

問題番号	出題の趣旨	結果
2三	文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができるかどうかをみる	○
3二	文の成分の順序や照応について理解しているかどうかをみる	○
4二	短歌の内容について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる	○

数学全体 おおむねできている

分類		区分	結果
学習指導要領の 領域		A 数と式	<input type="checkbox"/>
		B 図形	<input type="checkbox"/>
		C 関数	<input type="checkbox"/>
		D データの活用	<input type="checkbox"/>
評価の観点		知識・技能	<input type="checkbox"/>
		思考・判断・表現	<input type="checkbox"/>
問題形式		選択式	<input type="checkbox"/>
		短答式	<input type="checkbox"/>
		記述式	<input type="checkbox"/>

問題番号	出題の趣旨	結果
6(3)	統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	○

3 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査の結果

児童・生徒質問紙（小・中学校）：調査する学年の児童生徒を対象とした、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査を実施した。安城市の結果データをもとに全国と比較し、よいと思われる回答と、課題があると思われる回答を以下に示す。

<小学校6年生（質問紙調査の結果）>

【全国比でよいと思われる回答】

規範意識 → 「人が困っているときは、進んで助ける」、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」に対して「当てはまる」「どちらかという当てはまる」と回答しており、多くの児童に規範意識が育っている。
I C T機器の活用 → 5年生まで学習の中で、I C T機器を活用した授業において、「分からないことをすぐに調べることができる」に対して多くの児童が「当てはまる」「どちらかという当てはまる」と回答しており、授業の中で、I C T機器が気軽に手に取れるような使い方をしていることがうかがえる。

【全国比で課題があると思われる回答】

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況 → 「5年生にまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」に対して多くの児童が「どちらかという当てはまらない」「当てはまらない」と回答した。さらに、「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていたか」対しても「どちらかという当てはまらない」「当てはまらない」と回答した児童が多くいた。児童が考えることやまとめることに苦手意識をもっているのか、授業の中でまとめたり、考えさせたりする活動の時間が不足しているのか、検討する必要がある。ただし、どちらの問いも昨年度に比べて、「どちらかという当てはまる」「当てはまる」が増えていることから、授業改善が行われてることがうかがえる。 → 「学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができているか」に対して「どちらかという当てはまらない」「当てはまらない」と回答した児童が多い。ただし、昨年結果より、「どちらかという当てはまる」「当てはまる」が増えている。
学習に対する興味・関心や授業の理解度等(国語) →国語の勉強は大切だという思いはあるものの「国語の勉強は好きですか」に対して「どちらかという当てはまらない」「当てはまらない」と回答した児童が多くいた。また、「授業の内容はよくわかりますか」の問いでも、「どちらかという当てはまらない」「当てはまらない」と回答した児童が多い。

<中学校3年生（質問紙調査の結果）>

【全国比でよいと思われる回答】

学習に対する興味・関心や授業の理解度等（数学） → 「数学の勉強が好き」「大切だと思う」と回答した生徒が全国と比べ、多くなっている。また、「数学の授業で学習したことが、社会に出たときに役に立つ」と考える生徒が年々増加傾向にあることから、数学に対する興味・関心が高まっていることがうかがえる。
学習に対する興味・関心や授業の理解度等（英語） → 今までの授業で「スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていた」に対して、「当てはまる」のみで5割を超えている。
I C T機器の活用 → 「1、2年生の時の学習の中でPC・タブレットなどのI C T機器を活用することについて、分からないことがあった時に、すぐに調べることができる」に対して、「とても思う」と感じている生徒が多くいることがわかる。授業中にI C T機器を使って調べられる状況があることがうかがえる。

【全国比で課題があると思われる回答】

生活習慣 → 「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」に対して、「どちらかという当てはまらない」「当てはまらない」が多い。一方、「同じくらいの時刻に起きていますか」においては、「当てはまる」「どちらかという当てはまる」が多いため、睡眠時間が不規則であることがうかがえる。
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況 → 「1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていたか」に対して、「当てはまらない」との回答が多く、生徒が意識していなかった、または教科と教科を繋ぐ横断的な取り組みができていなかったことが考えられる。 → 「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいるか」の問いに、「どちらかという当てはまらない」「当てはまらない」と回答した生徒が多い。
学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語） → 昨年に引き続き、「国語の勉強が好き」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」「国語の授業で、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫した」と答えた生徒が少ない。ただし、「国語の勉強が大切だ」と考える生徒は9割を超えており、昨年度よりよくなっている。

4 教科に関する調査の結果と質問紙調査の結果との関係から

安城市における質問紙調査結果と平均正答率の相関関係について、正答率が高い層にみられる傾向を以下に示す。

<小学校6年生（正答率が高い層にみられる傾向）>

基本的な生活習慣等	毎日、同じくらいの時刻に寝ている児童が多い。
	毎日、同じくらいの時刻に起きている児童が多い。
挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っている児童が多い。
	人が困っているときは、進んで助けている児童が多い。
ICT機器の活用	わからないことがあった時、すぐに調べる児童が多い。
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる児童が多い。
	分かった点や分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる児童が多い。
	友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題に解決に取り組んでいる児童が多い。
学習に対する興味・関心や授業の理解度等（算数）	算数の勉強は大切だと思う児童が多い。
	問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える児童が多い。
	学習したことを、今後の学習で活用しようとしている児童が多い。

<中学校3年生（正答率が高い層にみられる傾向）>

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	わからないことや詳しく知りたいことがあったとき、自分で学び方を考え、工夫することができる生徒が多い。
	各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行った生徒が多い。
	課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる生徒が多い。
	分かった点や分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる生徒が多い。
学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語）	話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめられる生徒が多い。
	説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している生徒が多い。
学習に対する興味・関心や授業の理解度等（数学）	数学の授業の内容がよくわかる生徒が多い。
	問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えようとする生徒が多い。
学習に対する興味・関心や授業の理解度等（英語）	授業では、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思う生徒が多い。
	授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思う生徒が多い。

5 結果をもとにした今後の取り組み

各教科の全国的な課題や安城市の傾向を踏まえた今後の取り組みについて、各教科（国語、算数）と質問紙調査でまとめた。

(1) 全国的な課題と安城市の今後の取り組みについて<国語>

<全国的な課題>

- ・事実と観測、意見の区別が明確でないと、自分の考えを伝えるための書き表し方の工夫に課題が見られる。
- ・自分の考えなどを記述していても、必要な情報を取り出すことや表現の効果を考えることに課題が見られる。

今後の取り組み

<小学校>

- ・「好き」「よくわかる」については、近年横ばいとなっている。学習の内容がわかることが、「国語が好き」につながると考える。児童質問の中のICT機器の活用において、「画像や動画、音声等を活用することで学習内容がよくわかる」と回答する児童が多いことから、これまで以上にICT機器を活用したインクルーシブな授業と、分かったにつなげるために、課題に対して自らが考え、それをまとめ、発表する時間を確保していく。
- ・自分の考えをまとめる力を身に着けるため、短い文章で書くことや振り返りにおいて、何について書くのか目的や意図を明確にした活動を繰り返し行い、書き方や表し方を工夫できるよう指導していく。
- ・登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像させる場を用意するとともに、文章中の一つ一つの言葉や主語と述語の関係に注目できるような指導する。

<中学校>

- ・全国的にみると結果は望ましくないが、昨年よりも「好き」「よくわかる」「学んだことが役に立つ」と考える生徒が確実に増えていることは、授業改善をしてきた国語科教諭の成果である。また、「国語の勉強が大切だ」と考えている生徒は今年初めて9割を超えた。
- ・話を聞いたり文章を読んだりするとき、話の内容の全体像を捉えられるよう指導をしていく。そのために、主語と述語の関係に注目させたり、表現の効果を考えたり、生徒が一つ一つの言葉に注目するような授業改善を図る。
- ・自分の考えが相手に伝わる文章をつくることができるように、表現の効果を考えたり、場面を考えたりする時間を確保する。そして、ペア、グループ、全体問わず発表する場や授業の振り返りの場を充実させたりするなど、言語活動を充実させる。

(2) 全国的な課題と安城市の今後の取り組みについて〈算数・数学〉

〈全国的な課題〉

- ・ 図形や単位量当たりの大きさ（速さなど）について、深い理解を伴う知識の習得やその活用に課題が見られる。
- ・ 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られる。

今後の取り組み

〈小学校〉

- ・ 1つの問題に対して、様々な解き方があることが分かったり、考えようとしたりすることができる場を授業に取り入れる。ICT機器を活用し、友達の考え方や解き方に触れる場面を設定していく。

〈中学校〉

- ・ 数学に対して、意欲的に取り組んでいると考える。一方、学習したことを今後の学習で活用しようという意識がやや劣ってる。そこで、既習事項をどう使って解くか、生活とどうつながっているかを、生徒が意識できるよう単元と単元のつながりや既習事項とのつながりを気づけるような言葉かけや授業展開をしていく。

(3) 質問紙調査結果から明らかになったことと、今後の取り組みについて

〈学校及び児童生徒に対する質問紙調査の結果から、全国的に明らかになったこと〉

- ・ 「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考える児童生徒の方が、教科の平均正答率や挑戦心・自己有用感・幸福感等が高く、学び方を工夫している傾向がある。
- ・ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の両方に取り組んだ児童生徒グループは、ほかのグループに比べて、各教科の正答率や授業の理解度、挑戦心・自己有用感・幸福感等が高い傾向にある。
- ・ 課題解決に取り組む学習活動を行っている学校ほど、考えをまとめ、発表・表現する場面でICTを活用している傾向にある。その両方に取り組んだ学校グループの児童生徒は、それ以外のグループよりも各教科の正答率が高い傾向にある。
- ・ 約9割の児童生徒が、以下のようなICT機器活用の効力感を感じている。
 - ◇ わからないことがあった時に、すぐに調べることができる
 - ◇ 画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよくわかる
 - ◇ 友達と考えを共有したりくらべたりしやすくする
- ・ ICT機器活用の効力感が高い児童生徒ほど、挑戦心・自己有用感・幸福感等が高い。

今後の取り組み

- ・ 児童生徒が基本的な生活習慣を身に着け、自己有用感、幸福感を感じられる支援を継続的にしていく。
- ・ 課題に向けて主体的に取り組む、話し合いながら学んだことを生かしていく授業や、自己の学びを振り返り、学習の見通しをもつ活動を推進し、主体的・対話的な学びの充実を図る。
- ・ ICT機器をこれまで以上に活用し、児童生徒の「わかった」「できた」を増やす授業を展開していく。